

諏訪地方の 経済概況 速報

2021.06

2021年5月末調査／2021年6月25日発行

SUWA AREA
ECONOMIC
OVERVIEW



諏訪信用金庫
SUWA SHINKIN BANK

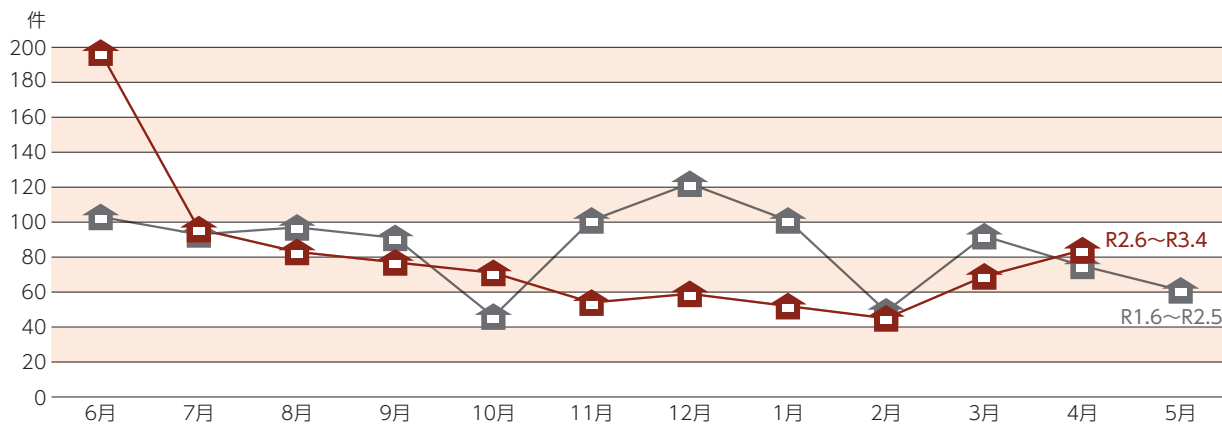
諏訪地方の概況

5月は、諏訪圏域に出されていた県の新型コロナウイルス感染警戒レベルが「5」から「4」に引き下げられ、時短・休業要請も終了した。しかし、依然警戒を緩めるレベルではなく、全国では緊急事態宣言が10都道府県、まん延防止等重点措置の適用が8県にのぼり、期間も延長され、感染拡大の勢いが衰えない状況が続いた。長期化するコロナ禍で個人消費が落ち込み、内閣府発表の1～3月期のGDP改定値は年3.9%減と3四半期ぶりのマイナス成長となった。

諏訪地方では、製造業の回復傾向が徐々に進む半面、観光業や外食産業などは移動制限の影響を受け、低調に推移した。総体的には、コロナ禍で落ち込んだ前年との比較では回復しているものの、コロナ禍前の一昨年水準に至っていない企業が多い。一方、世界経済が回復に向かう動きの中で、各種資材が高騰し、建設業ではウッドショックへの懸念も出ている。（諏訪信用金庫の取引先約130社へのヒアリング調査による取りまとめ）

		実数	前年同期比	
有効求人倍率【4月】（諏訪公共職業安定所管内）		1.21倍	△0.01ポイント	
手形交換高【5月】（諏訪手形交換所扱）	枚数	2,983枚	91枚	
	金額	4,516百万円	△533百万円	
	うち不渡り発生状況	枚数	0枚	0枚
		金額	0千円	0千円
車庫証明取扱件数【5月】（諏訪地方合計）		722件	△0.3%	
新設住宅着工戸数【2021年4月】（諏訪管内）		84戸	12.0%	

■新設住宅着工件数の推移（諏訪地方合計）



製造業

「復調傾向も、半導体不足や資材高騰」

全国的に半導体関連や自動車関連が堅調に推移し、一般機械も持ち直している。半導体製造装置メーカー大手5社の2021年3月期連結決算は全社が最終増益となった。電子部品メーカーの受注も急増し、電子情報技術産業協会発表の3月の世界出荷額は、コロナ禍前の2019年3月の出荷額を上回り、在庫水準も高まっている。工作機械は米中の景気回復を背景に輸出が伸び、日本工作機械工業会発表の5月の工作機械受注額（速報値）は、7ヵ月連続で前年を上回った。一方、製造業の復調に伴い、半導体不足と資材価格高騰の影響が出ている。電子基板の接合に欠かせない「はんだ」向けの需要が伸びている「すず」が10年ぶりの高値となるなど、資源価格は非鉄金属からレアメタルまで広範囲にわたって高値をつけた。5月は、2050年の温暖化ガス排出量をゼロにする目標を明記した改正地球温暖化対策推進法が成立し、今後の技術競争激化も予想される。

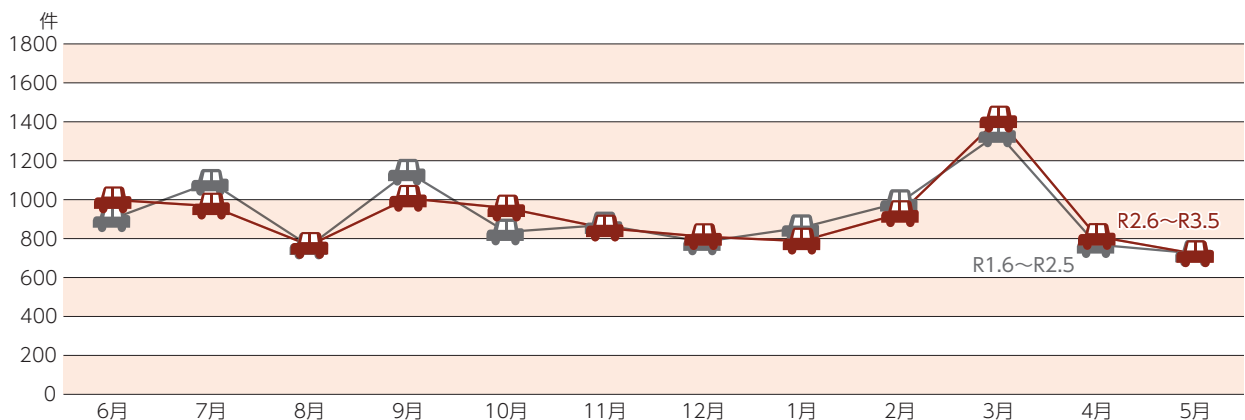
金属製品 プレス、メッキ、熱処理など	新規の金型需要が活発化するなど、自動車部品や半導体製造装置部品を中心に好調な受注が続く一方で、材料不足や価格高騰を懸念する企業が多い。材料価格が上昇して品薄状態となり、納期が長期化したり、価格転嫁のタイミングを計る企業がある。また、半導体不足による減産など、自動車メーカーの動きに伴う落ち込みを懸念する企業もある。
一般機械 工作機械、専用機械、省力化機械、検査機械など	工作機械は、中国や北米など海外向けの需要が好調で、国内向けも動きが出始めている。設備投資に対する感触は、コロナ禍で止まっていた意欲が上向いてきたとする企業と、まだ控えられていると感じる企業がある。半導体製造装置関連の受注は高止まりし、省力化機械や専用機の受注も回復基調となっている。また、建設機械は、米国や中国向けの受注が増加している。受注量がコロナ前に戻ったとする企業もあり、総体的に回復傾向だが、今後の材料不足への懸念もある。
電気機械 家電、パソコン、情報機器、電子デバイス、半導体関連など	プリンター部品は事業所向けが低調だったが、増産要請があり回復の兆しがある。プリント基板関連は国内外で回復が続き、5GやIoT関連は、より高度な技術が要求されている。NC制御装置は中国や北米、国内からの受注が旺盛。半導体関連製品も受注が旺盛だが、部品がそろわず完成品とならないことがある。EV電池製品は好調を持続している。
輸送用機械 自動車関連、ピストンリング、船外機、航空機部品など	自動車関連は、メーカー各社から増産要請があるものの、材料の動きが悪く、ちぐはぐな稼働状態でフル稼働にならない。サプライチェーン対策で、在庫確保をする動きは変わっていない。材料の不安定な動きに加え、半導体不足の影響も懸念される。船外機は、在庫調整の終了や北米需要の増大で急激に受注が回復し、月ごとに需要が伸び、1年程度は現状の水準が続く見通し。建機・農機部品も安定推移し、当面は前年水準を大幅に上回る売上高が見込まれている。
精密機械 時計、カメラ、光学機器、計量器、医療機器など	非接触型の体温計測機に使用されるレンズの受注は、好調が続いている。医療関係や監視カメラなどの高性能レンズも旺盛。中国で車載カメラ用レンズが大量生産されている影響で、国内では材料不足が生じ、納期に間に合わない事象が発生している。圧力計は酸素吸入器向けの需要が多いが、製造に使用する特殊材料の銅とレアアース系金属との合金の確保が難しくなっている。
製造業全般	漬物は、スーパーなどの総菜は好調だが、コンビニはコロナ禍の特需が落ち着き、前年対比では苦戦し始めている。コロナ禍による内食需要の高まりは、一服感がある。今年前半は野菜の値段が低く推移し、収益に寄与した。みそは、外食産業向けは依然低調だが、一般家庭用は堅調。日本食が注目され、海外需要も増えている。営業活動ができないことで新商品は売れにくい、経費の節減につながっている面もある。業界では大豆、塩、米などの原料価格が上昇し、原価の見直しが必要とされている。

商業 「地元での感染者増加で売上減少」

5月は、諏訪地方で新型コロナウイルス感染が急増した影響を受けた。県が4月21～29日の9日間の予定で諏訪市と茅野市の飲食店などに出していた営業時間短縮や休業要請が、5月5日まで延長され、連休後も感染者が続いた。地元での感染者増加とあって、警戒感から客足が止まり、飲食店や小売店などでは、売上が大きく落ち込んだ前年同月と同等か、それ以上に減少した。巣ごもり需要も続いているが、前年ほどの勢いはない。こうした中、2022年の諏訪大社御柱祭に向け、下社御用材の伐採が行われた。ただ、従来と異なり、極力参加人数を抑えた静かな動きで、御柱関連商品の販売も盛り上がりには欠けた。

スーパー	特需が大きかった昨年5月に比べ、売上が減少している。各種宴会や地域行事がないため、大人数向けのオードブルではなく、少人数向けの総菜を作り、ニーズに対応して効果を上げた店舗があった。
食料品	魚や肉の価格に大きな変化はなかった。前年同月は、弁当やバーベキュー用の肉のテークアウトが活発だったが、今年は伸びなかった。
家電	加湿器、空気清浄機、エアコンは好調で品薄状態が続いた。五輪が近づき、4Kテレビにも動きがあるが、開催方法がはっきりせず伸び悩んでいる。ただ、観客の入場制限が予想されることから、家庭用観戦商品が期待されている。
自動車	諏訪地方の5月の車庫証明件数は722件で、前年同月比2件、0.3%減少した。半導体不足の影響で、各メーカーとも納車は1~2ヵ月待ちが普通。
飲食店	諏訪地域での感染者急増の影響が顕著。クラスターの心配や急なキャンセルの発生に備え、コースや宴会予約を取らなかった店舗がある。
生花店	例年だとゴールデンウィーク中は婚礼が多い時期だが、コロナ禍でブライダル向けの花はほとんどなかった。
エネルギー販売	ガソリンは、世界のワクチン接種で原油需要の見通しが改善し、価格は上昇傾向にある。ガスは、商業用でホテル・旅館、飲食業の動きが鈍く、昨年的大幅減少から、さらに減少している。
靴店	コロナ禍で連休などに旅行へ行く人が少なく、スニーカーやウォーキングシューズの売上は低調だった。
書店	前年の勢いはなく、ゴールデンウィークの販売も減少したが、巣ごもり需要は安定的に推移している。依然、書籍の売上に占めるコミックの割合が高く、文庫本も良好。反面、地図や旅行ガイドブックは低調だった。

■車庫証明件数の推移



観光・サービス業 「逆風要素が多く、低調推移」

コロナ禍で、多くの宿泊施設が休業に追い込まれた昨年5月との対比では売上が増加しているが、一昨年比では大幅なマイナスとなっている施設が多い。主要都市の緊急事態宣言継続、まん延防止等重点措置、諏訪地域の警戒レベル5への引上げ、連休後の感染者増加などが重なり、集客できる要素がなく低迷が続いた。少なくとも緊急事態宣言解除がなければ、広告宣伝も行えず、打つ手がない状態。ただ、一部地域では、コロナ禍をきっかけにして、新たなビジネスモデルへの取り組みや観光資源を生かした地域連携への模索が行われている。

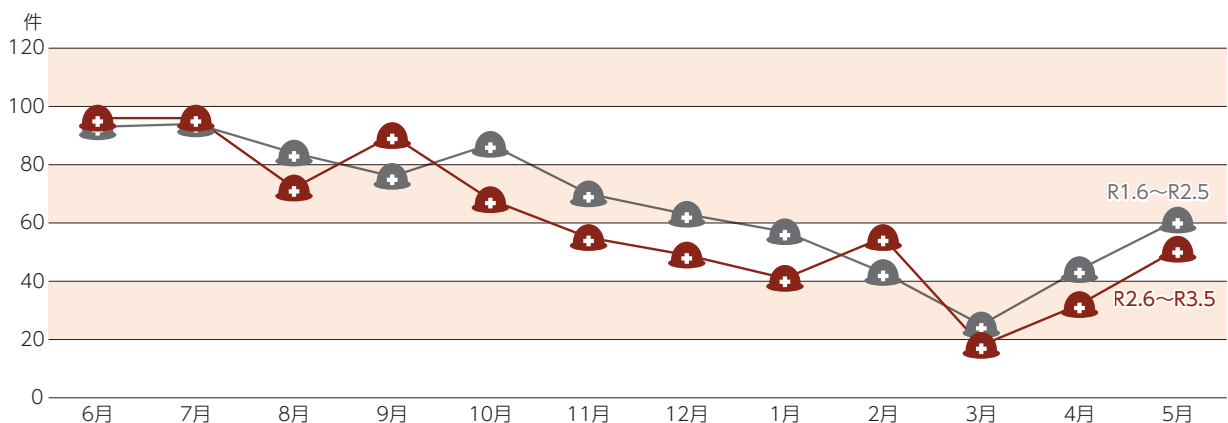
上諏訪温泉	5月は、一昨年比でほとんどの宿泊施設が減少した。業界団体の年次総会や企業の周年パーティーも予約はあったが、全て中止になった。(宣言解除予定の)6月20日までは同じような状態が続くとみられることから、計画休業する施設もある。
下諏訪温泉	夏の学生の合宿予約がキャンセルになり低調だが、部屋貸しでワーケーション利用が少しずつ入っている施設がある。
蓼科・白樺湖・車山・富士見等	総体的にゴールデンウィーク後半から低調に推移している。7～8月のトップシーズンの予約状況も鈍い。例年ある修学旅行は、キャンセルではなく、延期になっている。
諏訪大社	上社・下社合わせた5月の参拝者数は、約4万4千人だった。前年同月比では約2万4千人、117.2%増加した。

建設業 「ウッドショックで材料高懸念」

5月の市町村からの受注工事は合計51件、520百万円となった。前年同月に比べ件数は10件減少し、契約金額は639百万円、55.1%減少した。国、県関係工事の2021年4月～5月の累計公共工事（地元業者受注分）は、前年同期に比べ件数、契約金額とも増加した。民間工事は、諏訪地方の4月の新設住宅着工戸数が84戸で、前年同月に比べ9戸増加（12.0%）した。コロナ禍が収束方向の米中などで木材の需要が増加し、需給バランスが崩れて価格が高騰するウッドショックが懸念されている。

公共工事	5月に地元業者が受注した国県関係の公共工事は、諏訪建設事務所7件、その他土木・建築工事等1件の合計8件で、契約金額は653百万円だった。2021年4、5月の累計は11件1,354百万円で、前年同期比で件数は6件増加、契約金額は969百万円増加（252.0%）した。市町村からの5月の受注工事は、建築工事3件146百万円、土木工事および下水道工事38件334百万円、その他工事10件40百万円だった。
民間工事	諏訪地方の前年同月と比べた4月の新設住宅着工戸数は、利用関係別で「持家」は15戸増加の72戸、「貸家」は2戸減少の4戸、「分譲」は1戸増加の8戸、「給与」は5戸減少の0戸だった。長野県内の4月の新設住宅着工戸数は829戸で、前年同月比13.8%減少した。持家は5ヵ月連続の増加、貸家は2ヵ月連続の減少、分譲は2ヵ月ぶりの減少となった。

公共工事の推移（市町村合計件数 調査・測量・設計など業務委託は除く）



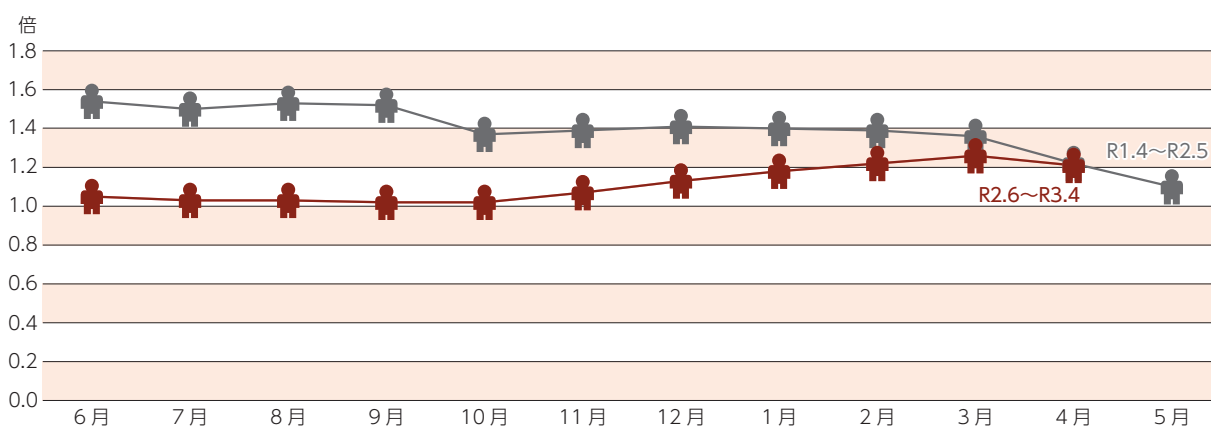
雇用

【製造業6業種とも新規求人数39ヵ月ぶりに前年同月比増加】

諏訪地方の4月の有効求人倍率は、前年同月を0.01ポイント下回り、前月より0.05ポイント下回る1.21倍となった。7ヵ月ぶりに前月を下回った。1倍以上は85ヵ月連続しているが、25ヵ月連続で前年同月を下回っている。長野県平均は、前月を0.05ポイント上回る1.30倍。全国平均は前月を0.01ポイント下回る1.09倍だった。完全失業率は、2.8%で前月比0.2ポイント上昇した。

諏訪地方の新規求人数(全数)は1,539人で、前年同月比342人増加(28.6%)した。求人の要因別は「継続する人員不足」「業務量増大」「欠員補充」「創業・新分野展開」の順。業種別前年同月比の新規求人数は、製造業が92.2%、生活関連サービス・娯楽業が83.3%増加したが、運輸業が13.2%減少した。製造業は39ヵ月ぶりに全6業種が増加した。新規求職者数は942人で、前年同月比133人増加(16.4%)した。1件10人以上の人員整理は2件だった。事業主都合による雇用保険資格喪失者は88人で、前年同月より25人増加し、前月より36人増加した。

■有効求人倍率の推移



《企業のひとこと》

- ベトナム人従業員は仕事に対してまじめで、日本人より使いやすい。更に採用したいが、海外に行けないため新規採用ができない(金属製品加工業)。
- 新型コロナウイルスよりも半導体不足による生産調整の方が問題(金属製品加工業)。
- 作業用ゴム手袋は、主要生産国のマレーシアがコロナの影響で多くの工場が操業停止になり、品薄状態(輸送用機械製造業)。
- 薬品関連で日本は、医療分野も含めて諸外国に後れを取っている。そのうち、ほとんどの薬品や医薬品を輸入に頼る時代が来るのでは(工業用薬品等販売業)。
- ウッドショックによる材料の高騰が懸念され、木材業者の買い占めも始まっている(建設業)。
- 政府の呼びかけにもかかわらず、都市部では人の動きが再び活発化している。そろそろ世間の自粛への歯止めが利かなくなっている感じで、販売促進に動くべきかの判断が難しい(飲食店)。
- ホテル・旅館のサービスは今後、自らの施設で宿泊、風呂、食事を提供するのではなく、地域の飲食店や観光名所、土産物店などと連携することで、魅力を発信できるのでは(観光業)。
- 5月我慢で8月に売上が見込めればよいが、全てだめだった場合の想定はしたくない(観光業)。

1-3月の日本、欧州のGDPは低迷、米国、中国は好調

1-3月の日本のGDPが発表されました。物価の変動を除いた実質で年率3.9%のマイナスというかなり厳しい数字が出ました。速報値の5.1%よりは少しマシになったものの良い数字でないことは明らかです。生活実感に近い、実額でのGDPである名目値も年額で540兆円程度と、前の四半期に比べて5.1%の減少となりました。名目GDPは給与の源泉ですから、厳しい状況が続いているわけです。



一方、米国の同時期のGDPはプラス6.4%、中国にいたってはプラス18.3%と日本と比べて大きな差となりました。

(ちなみに、細かい話ですが、中国以外の国のGDP成長率の計算方法は、前四半期に比べて年率でどれくらい成長したかというものに対し、中国は前年同期比という計算をしています。中国の前年(2020年)の1-3月期は武漢の封鎖などでマイナス6.8%でしたから、今年の1-3月の成長率は高く出がちですが、それでも好調と言えます。)

	日本	米国	中国	ユーロ圏
実質成長率(1-3月)	-3.9	6.4	18.3	-2.5
消費者物価上昇率(4月)	-0.1	4.2	0.9	1.6
				%

一方、1-3月期はロックダウンも

あった欧州で、はユーロ圏全体でマイナス2.5%、英国はマイナス5.9%と厳しい状況でした。コロナウイルスの状況やそれへの対応の違いで、経済成長に大きな差が出ているのが1-3月期でした。

ただし、欧州では、ワクチン接種が進み、このところ、ロンドンではパブが再開されたなどのニュースが流れています。4-6月期では欧州は7%程度の経済成長を見込むエコノミストもいます。結局ワクチンの接種状況次第で経済の状況が変わるといった傾向が鮮明になっています。

日本以外はインフレ傾向に

このことは物価上昇にも表れており、ユーロ圏や英国では、4月は消費者物価上昇率が、それぞれ、1.6%、1.5%です。米国はなんと4.2%の上昇です。(5月の数字は5%です。)中国(0.9%)や台湾(2.1%)などのアジア諸国も物価上昇率はプラスです。一方、4月の日本の消費者物価上昇率はマイナス0.1%です。9カ月連続のマイナスです。残念ながら、日本だけは主要国の中で、景気回復の遅れや弱さが鮮明となっています。これもワクチン接種の遅れが大きな原因と考えられます。緊急事態宣言などで経済活動が大きく制限されているからです。残念ながら日本は4-6月期もさほどの経済回復は見込めないというエコノミストたちの予想が大半です。

ワクチン接種の加速で景気は秋以降回復に。

一方、日本では、最近になりワクチン接種が少しスピードを上げつつあります。1日50万人程度の接種は見込める状況となっています。接種回数が1千万回を超えたということですが、あと100日もすれば、接種回数は累計で6千万回程度にはなると考えられます。高い免疫を得るには2回の接種が必要ですが、とりあえず1回でもワクチンを打った人の回数が増えれば、感染者数は減少し、緊急事態宣言などの発出はなくなり、経済活動への制約は大きく減ると考えられます。

もちろん私は感染症の専門家ではありませんが、今の接種ペースが落ちなければ、10月か11月ころには感染はかなりの落ち着きを見せるのではないのでしょうか。

懸念材料は変異株です。インドで変異株による感染爆発が起こり、ベトナムでも新たな変異株が発見されたというニュースがありました。ワクチンの効き方にも影響があるかもしれません。東京五輪という読めない変数もあります。

いずれにしても、諸外国のGDPなどの数字を見ている限り、秋以降の日本の経済回復に期待を持っていいと考えます。厳しい業界の方も多いと思いますが、それまでは信金さんに相談するなりして資金繰りを十分確保して辛抱してください。



SUWA SHINKIN BANK

諏訪信用金庫

長野県岡谷市郷田二丁目1番8号

TEL 0266-23-4567 FAX 0266-23-8044

<http://www.suwashinkin.co.jp/>